

序

職業能力開発をとりまく環境は、急激に変化しつつある。産業における技術革新の進展はもとより、社会経済全般にわたる情報化、ソフト化の進行は目ざましい。また労働力の高齢化、高学歴化、女性労働力の進出なども顕著である。一方、職業能力開発に対する需要は窓口、奥行とも、より一層広いものとなってきており、これに対応して、職業生涯を通じての訓練の機会の整備、提供が一段と求められてきている。このような状況にあって、職業訓練の内容や方法が、従前のままの姿であり続けることは許されないであろう。

CAI（コンピュータ支援教育；Computer Assisted Instruction）の研究開発の歴史は、世界的に見れば決して新しいものではないが、近年におけるパーソナルコンピュータの急速な普及とともに、欧米や日本でにわかに脚光を浴びてきた観がある。CAIの効果としては、生徒ひとりひとりの特質に応じた個別の学習進行ができること、問題解決やシミュレーションなど学習内容に適合した学習モードがとれること、機器への慣れを通じてコンピュータリテラシー（基礎的能力）への接近が期待できること、などがあげられる。一方、現時点では、実際のCAI教材の開発や、教育の現場への適用については、まだ星雲状態の部分があることも否定できないであろう。しかし情報機器としてのコンピュータを軸としたCAIが、教育訓練の方法、媒体として、きわめて豊かな将来性をはらんだ、魅力あるものであることは事実である。今や、オフィスでも工場でも、そして家庭ですらコンピュータは、何ら珍しくない、当り前のものになりつつある。われわれ職業能力開発にたづさわる者も、コンピュータについて学ぶこと、コンピュータを利用して学ぶこと、に無関心であったり、避けて通ることは不可能である。

このような状況の中で、職業訓練研究センターでは、労働省当局からの示唆も受けて、職業能力開発におけるCAIについての研究・開発に本格的に着手することとなった。昭和60年度には、とりあえずCAIについての資料の収集など基礎的な調査研究を行うこととし、今後のCAI教材開発の方向性をさぐるため

の最初のステップとしてとりまとめたのがこの報告書である。

調査研究を行うにあたって、当センター内に「職業能力開発C A I研究会」を設けた。研究会には下記の諸先生に専門委員として御参集ねがい、学識経験者の立場から数々のご指導をいただき、報告書の作成、とりまとめに御協力を賜わった。ここに厚く謝意を表する次第である。

（座長）末武国弘（神奈川大学教授、東京工業大学名誉教授）

坂元 昂（東京工業大学教授）

山口昭穂（神田外語学院C A I教育研究所長）

島田昌幸（職業訓練大学校教授）

なお、当センターにおいて本プロジェクトのメンバーとして調査研究に参画したのは以下の諸君である。

吉田 敦（開発研究第一部長）

武藤 栄（電気化学系研究室長）

戸田勝也（訓練適応研究室長）

桜井慎士（電気化学系研究室研究員）

西見安則（電気化学系研究室研究員）

高田芳紀（手工職種系研究室研究員）

谷口雄治（建設木工系研究室研究員）

職業能力開発の分野では、すでに各訓練施設で、若干の程度の差こそあれコンピュータの設置が進んでおり、その中にはコンピュータについての訓練ばかりでなく、市販ソフトや自作ソフトによるC A Iが試みられているケースも見られる。そのような動向が今後急速に活発化していくことは間違いないであろう。

この報告書が、職業能力開発における今後のC A Iについて考えるうえでの資料として、各方面で活用していただければ幸いである。

昭和61年3月

職業訓練研究センター
所長 多賀谷 敏 夫

訓研調査研究資料 第 69 号

職業能力開発のための CAI に関する
調査研究報告書

発行 1986年3月

発行者 職業訓練研究センター
所長 多賀谷 敏 夫
〒 229 神奈川県相模原市相原 1960
電話 0427 - 61 - 9911 (代)

印刷 (有) 藤本総合印刷
相模原市田名 3039 - 30
電話 0427 - 62 - 9501 (代)